

修身説約 卷ノ三

復刊版



群馬地域文化振興会

修身說約卷ノ三

木戸 麟 編纂

第一

留松ハ、伊賀ノ國、阿拜郡、東條村ノ人ナリ、祖
父忠七一女アリ、里人ト云フ、左吉ト云フ者
ヲ養子トシ、之ニ配シテ二男子ヲ生メリ、長
ヲ龜松ト云ヒテ、人ノ奴トナル、次ギハ即留
松ナリ、既シテ里人、癩ヲ患フ、左吉コレヲ厭
ヒ、其ノ家ヲ辭シ去レリ、里人、病ミナガラ、老

父ト共ニ、耕耘ノ業ヲナシケルガ、其ノ病ヒ
危篤ニ至ル頃、忠七モ亦病ヒ一罹レリ、一家
三口、病マザル者ハ、八歳ノ留松ノミニメ、飢
渴ノ憂ヒ、旦夕ニ迫レリ、隣里之ヲ愍ミ、國主
ニ訴ヘ、賑給ヲ請ヒ、天明三年六月、米若干ヲ
賜ハリケリ、留松晝夜二人ヲ看護シ、柴ヲ刈
リ、薪ヲ拾ヒ、飯ヲ炊キ、藥ヲ煎シ、至ラザルコ
ト勿カリシダ、母遂死セリ、留松哀慟シ之ヲ河
邊荒蕪ノ地ニ葬レリ、此ノ土ノ俗、天刑病ニ

テ斃レシキ

ノハ、墳墓ノ

地ニ葬ルコト

ヲ得ザレバ

ナリ、一夜深

更、天暗ク雨

甚シ、偶村人

ノ此ヲ過ク

ルモノアリ、



参事宛約

卷三

三

三

墓邊ニ徬徨スル者アルヲ怪ミ、近キ見レバ
留松ナリ、其ノ故ヲ問フニ、河水漲溢シテ、母
ノ屍ノ流失センコトヲ恐レテ此ニ至レル
ナリト、其ノ人之ニ感ジ、墓地ノ水面ヨリ高
クレテ、其ノ患ヒナキラ懇諭シ、伴ヒテ其ノ
家ニ歸ラシメタリ、既シテ祖父ノ病ヒ危篤ニ
及ビ、留松ノ孝養益至ラザルコトナケレバ
同年十一月、國主之ヲ賞シテ、年十五ニ及ブ
マデ、毎年米若干ヲ賜フ、寛政二年十一月、留